



学校における子宮頸がん等の教育について（平成 22 年 12 月）

我が国では、ここ 20 年以上、病気による死亡率の第 1 位は、がんによるものとなっております。子宮頸がんの罹患率も増え、年間約 8 千人の方が発症、約 2,500 人の方が亡くなられています。

子宮頸がんは、予防できる唯一のがんと言われており、我が国では昨年 10 月にワクチンが承認され、性交経験のない 10 代前半の女子に接種することが推奨されています。（半年以内に計 3 回接種。診察費を含め約 5 万円）

厚生労働省では、今年度の補正予算に、HPV ワクチンなど 3 種類のワクチンの接種費用を助成する関連経費約 1 千億円を盛り込んでいます。（中 1～高 1 の女子を接種対象に、市町村の事業に要した経費の 2 分の 1 を補助）

これらの助成制度が始まったことを、看護師資格を持つ議員としてはとても嬉しく評価を致しますが、母親として、また、青少年健全育成の立場から考えると、この取り組みを進めていく上では、次のことに十分配慮する必要があるのではないかと思います。

性に関する情報が氾濫し、性交経験の低年齢化や性行動の乱れの中で、子宮頸がんは 20～30 代の若い女性において発症が増加しています。

こうした性行動が引き起こすものは、子宮頸がんだけでなく、HIV 感染や性感染症、早すぎる妊娠、望まない妊娠など、たくさんあります。これら、全般を防ぐだけの十分な知識を、社会・家庭・学校において子供達に伝え、指導する必要性があります。

今こそ、思春期の子供達に、性行動に対する倫理観や道徳観、規範意識の醸

成と向上に努める時であり、一人の人間として、「自分も相手も大切にする心」を育てていく時です。

また、実際に、ワクチンを接種することになれば、子供であれ、ワクチン接種の意義や接種回数など、インフォームドコンセントは非常に重要であると考えます。

1)性にまつわる問題が深刻化する中、子供の成長段階に応じて、適切な指導を行うべきだと考えます。健全な異性観を持ち、望ましい行動がとれるようにするために、学校において、性に関しどのような教育をされているのでしょうか。

2)子宮頸がんや予防ワクチン接種に関して、正しい知識を伝える必要があると考えますが、学校でどのような取り組みを行う予定かお尋ねいたします。

〔田辺県教育長答弁〕

1)性教育について

性に関する情報が氾濫し、様々な課題が生じている中、児童生徒が正しい知識のもと責任ある行動がとれるよう、各学校では、本県独自に作成した手引きに基づきながら、各教科や道徳など、教育活動全体を通じて、男女の人格の尊重、生命の誕生や性感染症の予防等に関する正しい知識などを、発達段階に応じて指導しております。

2)「子宮頸がん」等に関する取組について

現在、高校で使用している健康に関する啓発教材に、今年度から「子宮頸がん」が新たに加えられ、こうした教材を活用し、検診の重要性などについて指導しているところです。

こうした中、ワクチン接種の費用助成に関する予算案が、今議会に提出されたところであり、今後、健康福祉部が作成する、主に中学生を対象とした啓発

用リーフレットを活用し、各学校を通じて、生徒・保護者に情報提供を行うなど、市町教委と連携しながら「子宮頸がん」の理解が深まるよう啓発に努めてまいります。